

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「新潟の埋蔵金」

突然ですが、あなたは信じますか？新潟の埋蔵金！

もちろん国や県といったその筋の埋蔵金ではありません。ホンモノ（かもしれない）お宝、金銀財宝ザックザク（であるかもしれない）のお話です。

かつては、佐渡金山が日本最大級の宝の山であったことは周知の通りですが、実は徳川や、武田信玄の埋蔵金伝説のように、新潟県内にも埋蔵金話が各地に言い伝えられているのです。

たとえば、上杉謙信の埋蔵金伝説、あるいは、佐渡相川金山の山師といわれた味方氏の埋蔵金伝説、かつて柏崎を治めていた毛利氏の埋蔵金伝説、そして関東一円で言い伝えられている小栗上野介の埋蔵金が、実は小千谷にあるという伝説等々があり、今もなお、密かに研究している好事家もいるのです。

「そんげのテンポ（嘘）だ」と思う方も以下をご覧あれ。身近な話で少しは納得できると思います。

実際新潟市の某所では、昭和39年に、老松の根元から小判が全部で14枚見つかった話があります。また、昭和58年には、阿賀野市某所で重さ10キロの古銭がじゃらじゃら見つかった話もあります。そのほか、魚沼地方の某所で某氏が畑仕事をしていた折、鍬にガチャッとあたるものがあり、小判37枚と金が発見された話も残っています。

とここまで読んだあなたは、「こうはしてらんね！」「こんげの読んでる場合でねーて！」とすっと立ち上がりとうとしたに違いありません。発掘道具を買いにホームセンターに走りたくなった人もいるでしょう。

しかし、県内お宝埋蔵地は、他人の目から隠すために目的ですから、どこも交通の便がよろしくない場所、そうそう簡単に素人が行ける所ではありません。現代のように銀行のなかった時代の金銀財宝財産は、安全面を考えれば人目にふれぬように人里離れた地に隠すしかなかったのでしょう。そんな地へ危険を冒して、多くの県民がこっそりと伝説の地へ駆けては、交通渋滞・近隣迷惑・環境破壊・遭難事故の危険も十分考えられます。そのため場所を詳しく書けずに申し訳ないのですが、県内各地の埋蔵金伝説の地に共通の事項をお伝えします。

その1 「朝日さし、夕日輝く その下に 黄金千両 朱 千杯」の歌が伝わる所。

その2 昔からの地名に、「朝日」「長者」「宝」のつく所。

その3 植物（椿や松、つつじの木の下）が植えてある所。

さて、どうですか？その1の歌は、言い回しを変えて全国に点在しますが、こちらは新潟版といったところで、県内各地でみられます。その2の地名は、県内しかもかありますし、その3に至っては「いっぺことあって分かるわけないですて」状態です。とはいえ、知れば知るほど気になる埋蔵金伝説、ほら、あなたの家の庭の松の根元にも埋蔵金が埋もれているかもしれません…。

